



令和3年2月1日
北区立東十条小学校
校長 中村 都士治

冬から春へ

副校長 小島 由子

今年は2月2日が節分、3日は立春。まだ寒さの厳しい日があるようですが、立春を過ぎると少しずつ寒さも緩み始め春の気配が感じられるようになってきます。

先日、展覧会が行われました。一人一人の子供が思いを込めて仕上げた作品は、約950点。すべての作品にその子供の雰囲気や表情がにじみ出ていました。ほっこりされた方もたくさんいたことでしょう。その展覧会の日程は、年度当初は金・土の2日開催の予定でしたがコロナウイルスの流行により、日曜日までの開催としました。その後、1月の初旬に非常事態宣言が出されましたが、子どもたちの作品を保護者の皆様には見ていただきたい、しかし密は避けなくてはならないと考え、月曜日までの4日間の開催としました。そして人数制限・参観時間の指定をさせていただきました。皆様のご理解・ご協力のおかげで行列ができることもなく、無事に終了することができました。受付等お手伝いいただいたPTAの皆様、人数制限・参観時間の指定に応じて参観していただいた皆様、子どもたちに温かい声をかけてくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

展覧会が始まってから心配したのが降雪の予報です。幸い展覧会には雪は降りませんでした。東京で雪が降るのは困りますが、スキーが好きな私にとって、今年の雪は多いか少ないか気になります。カメムシが多い年は大雪とよく聞きます。スキー学校の先生から、カマキリが産んだ卵の位置で積雪の多い少ないがわかる、とも聞きました。平地などでは40cmぐらいの所に産卵するのが年によって10cmほど高いところに産卵するそうです。実際、あたっているか確かめたことはありませんが、毎年、秋にそんな話をするのが楽しみです。ちなみに今年のご存じの通りたっぷり積もっています。

そのスキー学校には私のような学校関係者、農家、車のディーラーさん、外科医、歯科医、紳士服、おそば屋さん、TV局、広告代理店、電機会社のエンジニアさんなどいろいろな生徒さん（と言っても大人です）がきます。皆さん自分のスキー技術の向上のために熱心ですが、いろんな職業についていることもあり、スキー以外の興味の対象も、考え方もさまざまです。スキー学校の先生から課題が出された際、足首の動きを意識する人、上体の動きを意識する人、スキー板の雪面との角度を考える人、ギューンと擬音を言いながら雪との感覚を頼りに滑っていく人。滑り終わったら、どんなことを考え意識して滑ってうまくいったか（課題が解決できたか）を生徒たちはお互い自然と伝え合います。うまく滑るためには、自分にない目のつけ所もとても参考になるのです。

東十条小の子供たちは、それぞれの考え方や家庭での文化をもっています。将来、今のコロナウイルスの流行のようにこれからの予想がつかない課題が子供たちに立ちほだかることがあるでしょう。子供たちが自分にはなかったさまざまな考え方や見方も上手に取り入れ、協力して、目の前にある課題を解決できる人に育ってくれればと願っています。

学校では新年度の計画を具体的に立てる時期となりました。コロナウイルスの流行で先の状況が見えないところもありますが、皆様からいただいた学校評価と年間の振り返りを踏まえ、子供たちが課題をとらえ解決できる人に育っていけるよう、教育計画を立てていきます。



日	曜	校庭開放	2月の行事等
1	月		ふれあい月間
2	火		4時間授業
3	水		水曜時程(5時間・3~6年) 4時間授業(1・2年) クラブ(5時間目・3年見学)
4	木		
5	金		4時間授業(1・2年) 新1年保護者説明会
6	土		
7	日	○	
8	月		委員会⑨
9	火		
10	水		水曜時程(5時間)
11	木	○	建国記念の日
12	金		音楽朝会
13	土		
14	日	○	
15	月		
16	火		安全指導 なかよし班遊び①
17	水		水曜時程(5時間) なかよし班遊び②
18	木		なかよし班遊び③
19	金		児童集会
20	土		
21	日	○	
22	月		クラブ
23	火	○	天皇誕生日
24	水		水曜時程(5時間)
25	木		日光高原学園代替事業(6年) 自転車講習会(4年)
26	金		
27	土		土曜授業⑦(公開:6年) 保護者会③(役員選出1・3・5年)
28	日	○	

与論小と
東十条小の
キャラクター
紹介

与論島の形であるクジラがモチーフで、緑色の右目は美しい自然を表し、ピンクの左目は「結の島」与論の人たちの優しさが込められている。与論小学校4年生の清水愛さん考案。



東十条小にたくさんの幸福を運んでくれる「【福】ロウ」。
学校のシンボルであるイチョウのマークがたくさん入った服を身にまとっている。東十条小学校6年2組の三屋遙花さん考案。

「与論3校盟約40周年記念展覧会を終えて」

展覧会主任 眞下 奈々恵

与論3校との姉妹校盟約40周年を記念する展覧会でしたが、コロナ禍のために与論の皆さんと直接的な交流をもつことができませんでした。せめて展覧会では、与論とのつながりを感じ、絆を深められたらと思い、題材を考えました。

また、学校行事が少ない上に、「新しい生活様式」の中で子供たち自身も我慢を強いられることが多い日々だったと思います。「一人一人がのびのびと個性を發揮できるもの」「生き生きと楽しく制作できるもの」を意識し、展覧会に向けて制作活動に取り組みました。どの子ども真剣に集中ながらも、笑顔で喜びを感じながら作品制作に取り組む姿に微笑ましくも頼もしさを感じていました。そして、毎回どの学年でも子供たちの柔軟で面白い発想に触れることができ、たくさんの刺激をもらうことができました。たくさんの保護者の皆様が「東十条小美術館」へご来場いただきましてありがとうございました。心より感謝申し上げます。

「探検！北区のうつり変わり！」3年担任 中島 正皓

3年生は、社会単元「北区のうつり変わり」の関連で、飛鳥山博物館に見学に行きました。博物館では、大正や昭和の時代に使われていた黒電話やちゃぶ台などの道具が展示されていて、学芸員さんの説明を聞きながら、当時の生活の様子を学習することができました。子供たちは、「どうやって使うのだろう。」「これおじいちゃんの家で見たことある。」と目を輝かせながら真剣に見ていました。

地下にも大きな展示フロアがあり、そこでは、石器時代や縄文時代の様子が分かる化石や出土品が多く展示されていて、弥生時代のワラや木で作られた住居を見た子は、「これは昭和時代の家かなあ。」と可愛い感想をもっていました。身の回りの道具や環境には、たくさんの歴史が詰まっていることを実感でき、大変有意義な社会科見学になりました。

▶展示された昔の民家を見学する3年生



「生活指導部より」

生活指導主任 中里 奈穂

【生活目標】みんなの物を大切にしよう

今月は、みんなが使うものや、みんなで使う場所を大切に扱うよう指導していきます。使い方が雑だったり、片付けがしっかりできていなかったりする様子が見られます。自分のことだけでなく、次の人のことも考えて、みんなの物を大切にできるようにしてほしいと思います。ご家庭でも、使ったものは、きちんと元の場所へ戻すなど、整理整頓について声かけをお願いいたします。